

平成26年度 第2回人権教育ミドルリーダー育成講座実施報告

人権・地域教育課

1 期日等	平成26年8月18日(月) いかるがホール 研修室1		
2 参加者	第2期受講者：10名	第3期受講者：12名	計 22名
3 日程	9：35～10：00 アクティビティ「多数派・少数派」		
	【第1講座】		
	10：00～11：00	講師『子どもたちがエンパワメントされる学校づくり』をめざして	
		講師 伊賀市立柘植中学校教諭 若山 公治	
	11：05～12：00	グループ討議、まとめ	
	【第2講座】		
	13：00～14：10	講演「LGBTの人権課題と現状」	
		講師 宝塚大学看護学部教授 日高 庸晴	
	14：10～14：40	講演「当事者の立場から-自らの経験から分かるセクシュアルマイノリティの当事者に必要なもの-」	
		講師 RC-NET ユースアドボケーター 濱中 洋平	
	14：50～15：55	意見交換・まとめ	

4 事業実施内容(概要)

(1) アクティビティ「多数派・少数派」

- ・ゲームを通じて、少数派の気持ちを体験し、公正な社会について考える。

(2) 第1講座(テーマ：「人権尊重の視点に立つ学校づくり」)

○ 講演『子どもたちがエンパワメントされる学校づくり』をめざして

- ・本校では、なかまづくり・集団づくりは教育の土台としており、このことは、授業づくりや学力向上の基盤となるものである。子どもたちの進路保障を考える上で小・中学校の取組に連続性や一貫性をもたせることが大切である。

- ・人権学習を通して、どの子にどんな力を付けたい(元気づけたい)か、教員一人一人がしっかりとした思いをもった上で取り組む。そうしたことが人権問題を自分の課題と結びつけて考えることにつながっていく。

○ グループ討議・まとめ

- ・これまで大切にしてきたものをいかに若手教員に伝えていくか、いろいろな世代の者が意見を出し合いながら、学校全体で取組を進めることにより、互いに学び合うことができる。チームとして取り組むことが大切である。



(3) 第2講座(テーマ：「性的少数者の人権」)

○ 講演「LGBTの人権課題と現状」

- ・日本でなされてきたエイズ教育は異性間を想定してのものであり、男性間でエイズ感染が多いという事実が正しく伝えられていない。
- ・HIV感染に関する調査結果からは、陽性者に「子どもの頃いじめられたことがある」「自尊心が低い」「社会の中で居心地の悪さを感じている」等の割合が高いという事実が見えてくる。また、性的指向が自殺未遂の経験に大きく関与していることも明らかである。

- ・学齢期に学校で正しい情報を得られていないことが問題である。保健室がセクシュアルマイノリティの子どもの避難場所となっているが、受け止める側にセクシュアリティの視点が欠けている。

- ・どんな大人(理解し話を聴いてくれる)といつ(より早く)出会うかが重要である。否定的でない前向きなメッセージ、「困った時は、言ってきたらいいんだよ。」「君の存在は分かっているよ。」というメッセージを送り続けてほしい。話しやすい雰囲気や環境を作ること自体がすでに支援となる。

○ 講演「当事者の立場から-自らの経験から分かるセクシュアルマイノリティの当事者に必要なもの-」

- ・幼い頃の体験をふり返ってみると、自分のことを理解してくれる大人や友だちとなかなか出会うことができなかった。「今だったら、こんな先生と出会っていたら・・・」と思う。

- ・今、自分が支援に関わっている若者は、少しずつ理解してもらえる環境ができつつあるものの、様々な偏見も受けながら成長してきた子たちである。自分の性別に違和感をもちながら、決めかねている子が多い。性別を自認して固まるまでは時間がかかるもので、大人が誘導しないことが大事。

- ・マイノリティの子どもたちの存在に「なぜ気づかなかったのか?」「どんな気持ちでいるのか?」学校にいながら辛い思いをしているであろう子どもたちに、思いを馳せてほしい。

○ 意見交換・まとめ

- ・LGBTに関して、教員への啓発活動は一步ずつ進んでいると実感する。教員がまず知ることが大事であり、そこからどのように子どもに返していくかを考えたい。(受講者より)

- ・取組は継続することが大切である。現状を知り、そこからどのように実践につなげていくか、今後の取組に期待する。(講師先生より)



5 受講者の感想

「自分を語る」ことの大切さを改めて感じた。人は人との出会いの中で変わっていくのだと思った。LGBTに関して、表面上は笑いながら辛い思いをしている子どもたちがいると思うと、この問題をきちんと学ぶ機会が、我々教員にも子どもたちにも必要だと強く感じた。